

熊野神社本宮



■熊野神社本宮旧社地 - 熱田浮島神社 - 鳳泉寺 - 王滝講祖本社- 大朝日岳

熊野神社本宮旧社地

「熊野権現垂迹縁起」によると、熊野坐大神は唐の天台山から飛来したとされている。熊野坐大神（家都美御子大神）は、須佐之男命とされるが、その素性は不明である。太陽の使いとされる八咫鳥を神使とすることから太陽神であるという説や、中州に鎮座していたことから水神とする説、または木の神とする説などがある。家都美御子大神について他にも五十猛神や伊邪那美神とする説があり、菊理媛神とも関係する説もあるが、やはりその素性は不詳とされる。古代から中世にかけて、神職はニギハヤヒの後裔で熊野国造の流れを汲む和田氏が世襲していた。創建：不明（伝崇神天皇代、B.C. 33年?）

旧社格：式内社（名神大）、官幣大社（現、神社本庁の別表神社）現在の社地は山の上にあるが、1889年（明治22年）の大洪水で流されるまで社地は熊野川の中州にあった。和歌山県田辺市本宮町本宮 4 3 1

熱田神宮浮島社

熱田神宮末社境外社。熱田東町の旧字浮島による。当地が沼地であり、潮の干満に従って浮島のように見える場所があったことによるという。祭神は天穂日命（あめのほひのみこと）とも、天細女命とも、日本武尊ともいう。廃社となっていたものを明治二十四年ごろに再興した。

http://alay.at.webry.info/200906/article_3.html

名古屋市瑞穂区浮島町



鳳泉寺

1652年創建。長野県木曾郡王滝村下条3516-1

王滝講祖本社

木曾御嶽信仰の開祖を合祀する霊社。普寛の木像を中心に、覚明、普寛、一心、一山の銅像を祀る。『村誌王滝』1634-1635に記載がある「松越御堂」にある木像はこの木像のことと思われる。創建年代は不詳だが、1912年(大正1年)には存在した(福山寿久編『木曾の御岳』) 長野県木曾郡王滝村3297

大朝日岳(朝日連峰・朝日岳)

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』(1505年)によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天(初頭神は大山祇神)、女躰権現は大日如来(木花咲耶姫命)、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼(1246～56)によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

備考三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳(大富)・小朝日岳(子守)・西朝日岳(女躰)ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が朝日岳(諏訪神)に位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。

■熊野神社本宮旧社地 - 千鹿頭神社(旧社地) - 久尻神社 - 王子神社 - 大沼浮島

千鹿頭神社(旧社地)

創立は詳らかではないが「延暦年間(782～806)に田村将軍利仁の副将軍藤原緒継と林の里長六郎公が“うらこ山”より現在の地に、諏訪の洩矢(もれや、もりや)神の御子の千鹿頭神(ちかとう、ちかとかみ)を移し祀った」と郷土史に書かれている。洩矢神は本来の諏訪の土地神で、天津神との国譲りで破れて諏訪に至った国津神の建御名方命(大国主神の御子。諏訪大神と同一視される)と対峙し、降伏したといわれます。その子の千鹿頭神は諏訪大神のもとで鹿の狩猟をよく行っていたことからこの名がついたとし、諏訪の有賀の千鹿頭神社(浜南宮)では酉の祭(御頭祭)ごとに鹿の頭を社に集めて諏訪神社に送ったと伝わっている。長野県松本市神田1



若一王子神社

寛永十九年(1642)山城國東山黒谷鎮座の神を勧請し小社を建て祭祀すと傳へられる。境内社 秋葉社・稻荷社 岐阜県多治見市東町3丁目

久尻神社

霊元天皇(1663-1687)の御代に美濃国郡尻村と称せられ、窯郷に鎮座の津島神社と御門天皇享保12年(1727)創建の日吉神社(旧官幣大社)山咋神の御分神と諏訪神社祭神建御名方神北野神社祭神菅原道真公(学問の神)の四柱を合併し、新たに恵比寿神を合併し明治百年の記念事業として、元の日吉神社境内を拡張整備した。岐阜県土岐市泉町久尻784

■熊野神社本宮（現） - 御嶽神社里宮（王滝村） - 大朝日岳

御嶽神社里宮（王滝）

祭神/国常立尊・大己貴命・少彦名命。古来、「本社」「若宮」「岩戸権現」とも呼ばれる。御嶽登拝の前の精進潔斎のための参籠の行場。山上の「奥宮」に対する「里宮」古くは御嶽三十八座の一つで、木曾氏の特別の崇敬により、三十八座の首座・木曾の惣社としてあがめられた。長野県王滝村東3315

備考

熊野神社本宮旧社地 - 熱田浮島神社 - 大朝日岳のラインはかなり古いと思われる。大朝日岳・大沼浮島と諏訪を経て伊勢つなぐライン上にも諏訪春宮の浮島とぶつかる。ただ、残念ながら熱田浮島神社は明治時代に再興したとあり現在地は線上からわずかにずれている。熊野神社本宮旧社地 - **千鹿頭神社（旧社地）** - 大沼浮島も古い。千鹿頭の神は諏訪の本来の土地神だった洩矢神の子。

熊野本宮も大朝日岳・大沼浮島、諏訪、御嶽山、熱田の気を集めていたといえる。現在の社地でも御嶽山里宮を通る場所になっている。中州に作られた熊野本宮は、元々は浮島神（弁財天or瀬織津姫）だったのではないだろうか。